

いってよいくらいあり、楽に直登する。

小滝帯をぬけると、しばらく平凡な登りが続く。やがて沢が明るくなる。そして沢の兩岸はガレ場。ここまでくるともう沢もおしまいである。1 mの小滝を越えると、水が急に冷たく感じられるようになり、大きなミスバショウの群落が出現し、すぐに赤安田代に飛び出す。

赤安田代では、ニッコウキスゲが盛りであった。山ふところの静かな田代を一面に染めている。登山道がないだけに、訪れる人とてないが、実にすばらしい所。沢が平凡であったことなど、忘れ果ててしまう。願わくば、いつまでもこの姿のままいてほしい。そんな思いを込めて、じっとみとれた。(記・ )

[タイム] 七入(6:50)→林道終点(7:40, 8:05)→黒滝沢出合(9:05)→赤安沢出合(9:20)→赤安小沢出合(9:30)→トヤマ沢出合(10:20)→赤安田代(11:35)

### 赤安小沢

1988年7月30日

L<sub>1</sub>

赤安小沢の下降は、赤安田代の横断から始まった。トヤマ沢源頭から田代を横切った所が、赤安小沢の源頭である。11:50下降開始。

ところで、この赤安小沢は、全く平凡な沢であった。上流部は急な下りとなったが、滝はかからず。中流部は平凡。わずかに赤安沢も近くなった頃に小滝群が出現し、ちょっと緊張しただけ。でも、そんなことなどまったく気にならないほど、赤安田代の印象が強烈で、沢の平凡さと比較しても充分におつりがきた。

最後の4 m滝は、右岸ブッシュ帯を下る。登りなら楽に越えられる滝である。13:50、赤安沢出合に到着して、2時間の下降を終了した。(記・i)

[タイム] 赤安田代(11:50)→赤安沢出合(13:50)→実川本流(14:00)→黒滝沢出合(14:15, 15:30)→林道終点(16:15, 17:00)→七入(17:45)

### 黒滝沢右俣

1988年7月30日

L<sub>3</sub>

天気晴。簡単な朝食を済ませ、車を実川林道入口において出発する。林道はいつもゲートがしまっているのので、車は入れない。装備を点検して歩き始める。林道は矢櫃沢より少し先まで続いている。ただし、矢櫃沢橋など、まだ工事中であ

る。さらに奥へ延長する計画もあるという。七入から50分程で林道終点である。

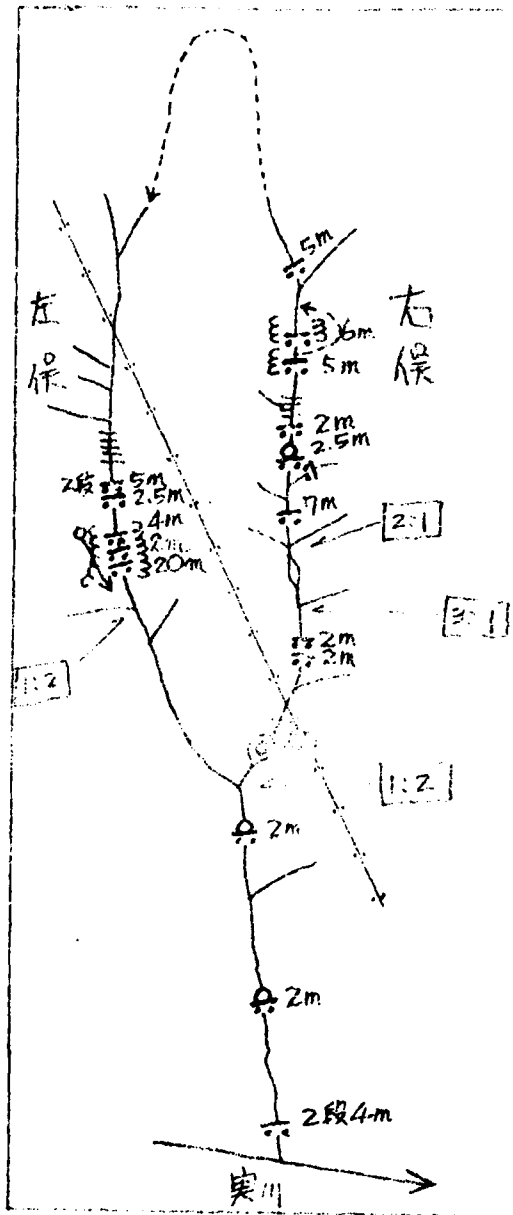
林道から河原に降り、小休止をした後、実川本流の遡行を開始する。途中、地図に記されている左岸の小道を探すが、所々わずかに踏跡が残っている程度で、沢を遡った方が早いと判断して、本流に戻り、遡行を続ける。黒滝出合の手前には砂防ダムが造られるのだろうか。測量のための刈り払いがされて、ペンキの印がついていた。本流を遡行すること50分程で黒滝出合に着く。ここで赤安沢に入る西さんたちのパーティと別れ、黒滝出合に入る。

出だしはゴーフである。そしてすぐに2段4mの滝が出てくる。これを越えると、途中、チョックストーンの滝が2つ出てくるだけで、二俣となる。ここまで50分。さして変化もない。水量は2:1で右俣の方が多。私達の予定は、右俣を遡行して左俣を下降である。

右俣に入ると、沢に大きな石があり、水は左右に分かれて流れている。中州になっているようだ。このあと沢が合流すると、上空に送電線が見える。現所在地確認にはもってこいである。10時ちょうどに送電線の下を通過する。

10:41, F。7mにつく。なんなく直登できる。左右に小沢を合せて、ナメを過ぎると、今度は5mの滝が出てくる。ここもなんなく越すが、次の6mが直登できない。しかたなく左岸を捲いて、滝の上部に降り立つ。

沢はやがて二俣に分かれ、水も濁れてくる。所々笹の枯れたのがかぶさって



るが、11時30分、何とか尾根に出る。尾根といっても平坦地が続いているので、地図の上ではだいぶ手前だと思う。現在地のおおよその見当をつけて、黒滝沢左俣の下降に移るべく、やぶこぎに入る。 (記

[タイム] 七入(6:50)→林道終点(7:40, 8:05)→黒滝沢出合(8:55, 9:05)→左俣出合(9:50)→右俣終了(11:30)

## 黒滝沢左俣

1988年7月30日

L.

黒滝沢右俣の遡行終了後、左俣を探しながらやぶこぎをする。平坦地のため、現在地の確認ができない。地図と磁石で方向を見ながら進む。所々に乾いた湿原があり、ミズバショウの大きな葉だけが、異様に群生している。20分程やぶこぎをしてゆくと、ようやく送電線の鉄塔が見えてきた。12時ちょうどに、左俣の源頭に降り立つ。小休止をして、下降を開始する。

沢を10分程下ると、送電線の監視路と出会う。道は刈り払いがされ、はっきりしている。このあとさして変化もないままに、30分程下降する。

「左俣の様子からすると、もう滝が出てきてもよさそうなものだ」と話していると、やがて沢が角度を増し、ようやく滝が出現する。最初は5mと2.5mの2つの滝を下降、次に4m、2mと滝が続き、その下の滝は一気に落ちている。下が見えないので、高さの確認はできないが、だいぶ落差がありそうである。ザイルは40mが1本なので、1回の懸垂では下降できそうにもない。捲くにしても、兩岸が立っているのだから、相当な高捲きになりそうだ。私達は、右岸を20m程ザイルをつけてトラバースし、そこから斜面の途中にある立木までいったん懸垂し、視点を取り直して右岸の急な草付に降り立った。滝の高さは20m程で、やはり1回の懸垂では無理だったようである。

左俣の核心部はここまで。あとは河原歩きをして、14時35分、右俣と出合う。そのあと50分程で実川本流へ。そこで赤安小沢を下降して私達を待っていてくれた西さんたちのパーティと合流して七入に戻る。途中、矢櫃沢出合で、林道工事の打ち上げをやっていた地元の人たちに出会い、ジンギスカンとビールをたらふくごちそうになってしまった。

[タイム] 左俣源頭(12:05)→送電線監視路(12:15)→右俣出合(14:35)→実川出合(15:20, 15:30)→林道(16:15)→七入(17:45)